
魔法少女リリカルなのは 転生者による原作破壊の物語

のりにゃんこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは

転生者による原作破壊の物語

【Nコード】

N7900Y

【作者名】

のりちゃんこ

【あらすじ】

ある日神様のミスで死んでしまった事もなく偶然転生させられる事になる少年少女たち。 彼等は少しでも良い未来を創ろうと奮闘する。

EP00 くプロローグく

俺は真つ暗闇の中で目が覚めた。

上も下も、前も後ろも、右も左も分からない、暖かく、心地の良い
“闇”

そういえば死んだんだっけ。

そんな事を考えていると、不意に声をかけられた。

「おめでとう！君はこの度、見事転生者に選ばれました！」

は？なに？いかにも私が神様ですみたいな話し方するメガネは。

「なんで俺？つーか死んで漸く心地の良い場所に來れたのに。」

全くだ。末期の癌とか言われて一年苦しんだんだぜ？

っていうか、余命半年とか言われたっけ。今思うとすげえな。しかし享年十九歳か。我ながらびっくりだ。

まあ今更どうでもいいが。

「ふむ。君の疑問も尤もだ。簡単に言うと、寿命で死んじゃった人間をランダムに選り出し、その中から気に入らない奴を候補から外し、最終的に残った人間の内の一人が君だ。まあゲームのテストプレイヤーにでも選ばれたとも思ってくれたまえ」

あ、真面目な口調になった。つつつかゲームのテストプレイヤーだよ。

「世界は『魔法少女リリカルなのは』だ。では特典を三つ与えろってことだから。ああ、ちなみに拒否権は無いから。」

えー無いの。まあしょうがないか。

「じゃあ、“ジェイル・スカリエッティ”のフィッシュ数乗の頭脳をくれ。」

「はい一つ。」

「いいの？流石に無理だと思ったのに！」

「まあそんならいなら。というか君、無理だと思ってるのに言うんだね。まあ、僕らそれ＋5位はあるから。まあ中には馬鹿もいるけど。」

そうなのか。意外にすごいなメガネ。

「あと二つだよ」

急かすな。まじで。

「じゃあ、レアスキルメイカーがいい。」

「ああ、レアスキルが作れる奴だね。まあ、妥当かな。了解。」
あと一つか。そうだな。

「何でも覚えられて且つ効率が普通の百倍。できるか？」

「もちろんさ。まあ、そんな回りくどい能力を頼んできたのは僕の所では君が始めてだが」

そうなの。割と便利なのに。

あ、そういえば。

「俺らが入る体つてのは産まれてくる赤ん坊なのか？というか新しく作られるのか？」

これが気になってたんだよな。二次創作じゃあよくあるけどどうなってるのかわからなかったし。

「特典に酷似した能力を一つ以上持った人間に入れるよ。まあそれで実現できない奴は新しく作るが。あと足りない特典は与えるから」

成る程。ん？

「実現できない奴つてのは？」

メガネは答えた。

「二次創作にたまにいるだろ？銀髪オッドアイとかさ。あと原作キヤラの親族とか。流石にそういうものは落ちて（存在して）無いから。並行世界になら探せばいるだろうけど君らが行くのはあくまで転生者用の世界だからね」

へーそうなの。

「神様ありがとう。色々教えてくれて」

「ありがとう、か……。その言葉を聞いたのは久しぶりだよ」

最低限の礼儀でしょう？

「よし、じゃあ記念に超ハイスペックな体にいれてあげるよ。」

はい？

「じゃあいくよ！キエエエエエエエエエ！」

「掛け声かつこ悪！」

馬鹿な事言ってたら下に落ちていく感覚がして、

俺は意識を失った。

EP00 〽プロローグ〽（後書き）

グダグダな気がありますが、作者は初投稿なので大目に見てください。

EP01 へ古代ペルカの王的なものになりました(前書き)

書き換えました

EP01 古代ベルカの王的なものになりました

なんか暖かい液体の中にいる感覚がする。

ああ、転生させられたんだっけ。

あれ？

SIDE 科学者

漸く長年の研究の成果が出る。

古代ベルカに存在したという二人の王

聖王と霸王

最近の研究で明らかになった“騎士王”と呼ばれる、彼等と同時期に生き、共に戦ったとされる第三の王。

その三人の遺伝子情報をもとに人造魔導師を創る計画。

プロジェクト EMPEROR

今日はその完成体を稼働させる日だ。

おや？もう時間か。さて、完成度はどの程度か記録せねば。

S I D E O U T

S I D E 名前はまだ無い転生者

ごぼっ という音と共に周りの水がぬけていく。

まだ目はあかない。

「おお！これが完成体か！」

ん？なんか色々声が聞こえるな。
ちよつと耳を傾けてみるか。

「はい。まだ溶液を抜いたばかりなので目はあきませんが。」

若そうな声だな。

「で、身体スペックの方はどうなっている？」

じじいみたいな声だ。

「はい。魔力値の方はA A A + S - っ所ですね。あと筋力などですが、今の状態でストライクアーツの達人級かその少し下くらいでしょうか。知能に関してはまだ分かりません。」

「ふむ、そうか。色々な薬品を投与して耐性を調べて見ようと思うから第二研究室まで運んでくれ。」

はい？今なんとおっしゃいましたかこのじじい？

薬物への耐性調べるって何？

待てやじじい！俺を殺す気か！殺す気なのか？

「ふふふふ。まずはテトロドトキシン当たりから試すかな。ふふふふ……………」

死ぬかも…………

そんなこんなで俺は意識を失った。

S I D E O U T

S I D E 研究者 B

「な……………リンカーコアが暴走状態に？いや、違う！これは……………」
いきなり実験体に異常が発生した。

「な……………何が起こっておる？完成体の体が赤く光出したぞ？」

リンカーコアに暴走に近い症状があらわれた。

そして

「広域殲滅魔法発動。“ワルプルギス・ナハト” 並行詠唱“デアボリック・エミッシヨン” 広域殲滅誘発魔法“フェアツヴァイ

フルング”発動」

まるで、機械のような感情の無い声が聞こえた。

ハッとして実験体を見た。

実験体は両手を前に突き出していた。

実験体の両手に白い光と黒き闇が顕現する。

そして二つの魔力が干渉しあい、

灰色の“絶望”が全てを染めた。

S I D E O U T

S I D E 転生者

「死ぬかと思った。つつーかなんで生きてんの俺？」

「ああ、それは君のレアスキルが発動して広域殲滅魔法を放ったからさ。」

メガネの声がした。神様だもんね！驚いたら負けだよね！

「いや、でも俺デバイス持ってないんだけど？デバイス無しじゃ魔法使えないんでしょ？」

「君は面白い事を言うね。その手に持っている魔導書がデバイスだよ。ああ、名前は覇天の魔導書 管制人格名は ”アルトリア” だ。大事に使ってくれたまえ。あと研究者達は生きてるから殺人はしてないよ。しかし記憶を消した上でランダム転移はしたようだけど。」

え、何それ怖い。

まあ同情はしないが。まあ同情はしないが。
大切な事なので二回言いました。

と言うかデバイスの名前、何てf a t e？

ああ、それより聞きたい事があつたな。

「何で人造魔導師に入れられたのか納得できる説明を求む。」

「ハイスペックな体で検索して一番性能が良くて、一番容姿が普通な体を選んだらそうなった。」

「一応聞いておこう。他はどんな容姿だったの？」

「肌の色が青とか、トカゲ男みたいなばかりだったが」

神様ありがとう！人間（スペックは化け物レベル）になれて良かったよ！トカゲとか苦手だったから！

所でココ、どこ？

EP01 〱古代ベルカの王的なものになりました〱（後書き）

なんか本当にグダグダですごめんなさい。

感想等寄せて頂けると嬉しいです。

それでは次回 原作っていつだっけ？

をお楽しみに！

EP02 原作っていつだっけ？

「神様〜ここどこ〜？」

気になったので聞いてみる。

「ん？えーと…………… あった。第135管理不可世界 通称 竜王の庭園だね。旧暦の462年に発生した次元断層の影響の調査中に発見された世界で、地質調査用次元航行船フューチャーがこの世界の物質を積んで飛び立とうとした時に巨大な竜の火炎弾で撃墜されてから管理不可世界とされているね。なにも持って帰ろうとしなければ何もされなかったそうだが。ちなみに今は新暦の62年だよ。あと余談だがこの竜は生体ロストロギア 竜王 とされているね。」

何それ怖い。

「あー、竜王の他には何が住んでんの？」

「ふむ。竜種が6000種類、魚類が9000種類、鳥類が6000種類、爬虫類、両生類が9000種類、哺乳類は400種類ほどで人間はいない。文明レベルなし。大きさは地球の30倍。平均気温26度って所かな。あと重力が地球やミッドチルダの120倍だね。さつき君がいた所ではミッドと同じくらいになってたけど。あと研究者達は全員この世界には居なくなっただけだね。居住区は残っているみたいだから住む所には困らないね。あとはドックは残っているからデバイスとかも作れるよ」

「なんと言うご都合主義……………」
「なんだ。まじで。」

「えーと……重力変動装置は残っていないみたいだ。その身体は君の特典で効率が100倍になっているようだからもう大丈夫みたいだね。」

うわー何でも覚えられて且つ効率が普通の百倍すげー。

「あと言い忘れてたけど特典には一部デメリットが付くんだよね。」

「はあ？なんですか？」

いきなりだったので驚いてしまった。

「ごめんね。忘れてた。あ、寿命縮めるとかは無いから安心していいよ。」

まあ確かに、何のデメリットも無くできるわけ無いよね。

「じゃあ俺にはどんなデメリットがあるんだ？」

「君の場合は、効率が百倍は食事量百倍、頭脳は普段は記憶力以外は二倍までに抑えられる、レアスキルメイカーは言ったと思うけど作ったら魔力枯渇。この三つだね。」

うわー 制限されても普通だー 食事量百倍以外は。

いや、待てよ？頑張つて通常の百倍腹が膨れるアイテムを作ればいいのではないだろうか。

よし、そうしよう。食費の為に。

まあかし

「それ程酷いデメリットじゃなくてよかった」

うん、本当に良かった。

「確かにね。因みに魔力EXとかだとリンカーコアが覚醒するまで極度の運動音痴になったりするよ。あと銀髪とかだと下手したらアルビノになっちゃうね。まあせつかくだから命に別状がないようにはしたそうだが」

うん。色素が限りなく少なくなるって事だもんね。ってか今おかしな事言わなかったか？

「もしかして、それ頼んだ人いるの？」

「うん。いるよ。デメリットは聞かなくていいぜって言ってたそうだから言わなかったらしいが。因みに魔法の神様（12級神）だよ」
そのあと思いつきり愚痴られた。精神的に死ぬかと思った。

神様の話ではそいつはもうデバイス持つて魔法使えるようになってるし銀髪も家系にしたそうだ。

魔力値EXとか相手にしたくねー

よし、極力原作に関わらないよう努力しよう。

EP02 原作っていつだっけ？（後書き）

転生者「ねえ。名前はいつ出てくるの？」

作者「んー 次くらいじゃね？あとDQNネームにすると
思っから。」

転生者「うわー よりによって厨二な名前になると言うのか。」

神様「あと海鳴の家についてはそのうち俺が用意するから」

転生者「結局介入する事になるのかorz」

EP03 どうしてこうなったorz(前書き)

感想でご指摘頂きましたが此処ではエイミィとクロノは同じ年という設定です。

EP03 どうしてこうなったorz

どうも皆さんこんにちは。

名前が無いのでオリジナル(?)の名前を借りている、『ヴィンセント・リヒテンシュタイン』です。

今現在、原作が始まる頃の新暦の65年です。

そして現在地は時空管理局次元航行艦『アースラ』です。

どうしてこうなった！

以下回想

└三年前┐

「取り敢えず、海鳴に家を作るのは闇の書事件が終わってからお願いします」

俺は今非常に困っている。

魔力値EXで海鳴産まれなんて特典をつけた奴がいるからだ。

折角の第二の人生棒に振りたく無いもの！

魔力値EXで海鳴って事はとんでも無い事になりそうなもの！

「面白くないけどそこまでするならいいよ」

俺、今絶賛土下座中である。

その甲斐あってか何とか諦めてくれたようだ。

「まあ、その代わりに幾つか言う事聞いてもらうから」

なん……だと……？

何とかして回避しなけ 「異論は認めない」ちくせう……

「もういいよ……で、何すればいいのさ」

「うん。まずはそっちの時間で言う30年位前に送った転生者（故人）が作った管理局の制度があるんだけど」

そんなに前にも送ってたんだ。因みに現時点で何人いるんだろ転生者。

「僕以外の神様が送ったのを合わせると、数えられない程度には。話戻すけど、その制度、ギルド制度っていうんだけど」

モンハンのギルドみたいな物ですね分かります。

「概ね合ってるよ。で、そこで傭兵、まあハンターみたいな物だね、に登録していくつか依頼をこなして欲しいんだ。因みに理由は見たいからだから」

まあそれくらいならいいか。リンカーコアの研究とかしたいし。

違法魔導師の逮捕位あるだろ。

んで、無力化と称してリンカーコア抜けばOKと。

「素敵な出会用意しておくよ……ふふふ……」

ん？なんか言った？

「いや、何も」

ー翌日

時空管理

局第1管理世界支部ギルド課

「ようこそ、時空管理局第1管理世界支部ギルド課へ。ご用件はなんでしょうか。」

「傭兵登録に来ました。」

つ、疲れた……

第135管理外世界からは滅茶苦茶遠かった。

一応外見年齢は11歳位にしている。神にこの年齢がちょうどいいと言われたからだが。

なんでも登録はここでしかできないそう。しばらく往復したら修行になるかもな……

で、迎えてくれた人が……

「はい、ありがとうございます。受け付けのエイミィ・リミエツタです。では、こちらの書類に氏名、年齢を記入して、同意しますに丸を付けて下さい」

「あ、分かりました。」

神様エ ぜってー態とだ。そうに違いない。

書類の内容（一部）

氏名 ヴィンセント・リヒテンシュタイン

年齢 11歳

例え任務で死亡したとしても管理局を恨んだり、訴訟を起こしたりはしません。また、以下の内容に同意します。

一つ 受けた任務は最後までやり遂げる。また、解約する時は報酬金額の二倍を支払う。

一つ 数人の傭兵と共同で依頼に当たる際、揉めない。また、報酬金額は人数で等分にする事。ただし、双方同意の上ならば取り分は好きにして良い。その場合、書類に示しておき、ギルド課窓口に届けておく事。

一つ 執務官、又はそれに準ずる者の行う試験に定期的に参加する事。この時、失格又は不参加の場合、傭兵登録を抹消する。試験は半年周期で行う（都合が悪い場合は一週間まで猶予が与えられる）。

e t c ……

読むのめんどくさい。 同意します っと。

「できました。」

ほい、と手渡す。

「はい、承りました。ヴィンセント・リヒテンシュタイン様ですね。あ、同い年なんだ〜よろしくね」

いきなりフレンドリーになったなあおい！

「いやー雰囲気が大人数っぽかったからね。あ、公私はちゃんと分けるからね。っと、じゃああっちの部屋に居る執務官の人の認定試験を受けて来てね」

何で考えた事に返事が来るんだろ神でもあるまいに。

「顔見てたら大体わかるよ？あとは勘かな？」

勘、怖え

さつさと指示された部屋に言った。家に帰って寝たい。

試験、面接室

とりあえずノックをする。

「どうぞ」

中に入った。面接だからめっちゃ緊張するわ

「試験官のクロノ・ハラオウンだ。座りたまえ」

いや、予想はしてたけど。高橋さんっぽい声だと思ったから。

「えーと、傭兵志願者のヴィンセント・リヒテンシュタインです。よろしく願います」

試

軽い心理テストのような物をつけた。

「では次に実技試験に移る。これから僕が撃つ攻撃を回避し、攻撃を一撃で良いので僕に当ててくれ。制限時間は20分だ」

訓練用の部屋に連れて来られた。

クロノ・ハラOWN試験官はもう既にS2Uを起動させている。

「アルトリア、セットアップ」

初起動である。

【J a w o h l ! A n f a n g !】

うん、川澄さんの声だよ。

とりあえず騎士甲冑を装備する。

コードギアスのランスロット見たいなイメージだ。

「開始する！」

直後、魔力刃がすぐ横を通過した。

すぐに戦闘モードに切り替える。騎士王の経験は伊達じゃない！

三本四本と魔力刃が飛んでくる。すべてを躲す。当たりそうな物は逸らす。そして徐々に近づく。

集中する。

「剣を！」

【a s c a l o n f o l m アインス I ! E x p l o s i o n !】

手にアスカロン（シグナムのレヴァンティンのカードリッジの所にあるのがリボルバー）が現れる。

さらに三回のカードリッジロード。

「龍牙一閃！」

圧縮された魔力を放出する！

劣化版を作ろうと思いました。

小一時間クロノに説教食らいました。

「ありがとうございました」

……その日は疲れたので礼をして帰った。

Ⅰ
数ヶ月後

「リミエツタ。依頼番号12985次元犯罪者ラカイ・モブ
ーキヤを捕まえて来たぞ。あと無力化すんのにリンカーコア抜いて
あるから」

顔に針がささったおっさんを引き渡した。

「報酬金額の500000\$だよ」

うは、ぼろ儲け。SSクラスは伊達じゃないな。

因みに報酬金額の半分は仲介料として管理局が持つて行くので俺
が貰ったのと同じ金額を管理局も貰って居る。そしてぼろ儲け。

あれからあったことを簡潔にのべるところなる

・リミエツタやクロノと友人になり、リンディ提督と知り合った。

・聖王教会の任務でカリム・グラシアに会った。

・ブラックリストに載っている転生者（全てがSクラス以上の広域次元犯罪者）にやたらと遭遇した（オリ主になるんだーとかほざいていた）。

・クロノと模擬戦をするようになってからクロノの実力が上がり、原作の倍以上に強くなった（階級に変化なし）。

・レアスキルメイカーでマルチタスク100倍を作ったり、監視用スフィアの応用で無限書庫を読破（4ヶ月）した事で『歩く無限書庫』なんて言う称号がついた。

Ⅰ　そして新暦65年3月

クロノに呼び出された。

「おう、クロノどうした？話があるって」

問いかける。

「何、頼みたいことがあってな」

「頼みたい事？なんだよ」

「実はこれから数ヶ月、航行任務があるんだが、少し遠くまで行く事になるから、『歩く無限書庫』であるヴィンセントに応援を頼みたい」

おお、クロノが自分から頼んで来るなんて珍しい、と思って、

「了解」

と、答えてしまった。

この時期の次元航行は無印に突入だと言う事を忘れて。

冒頭へ戻る。

ヴィンセント・リヒテンシュタインは、こうなった経緯を思い出しながらため息をついた。

自分に充てがわれた部屋の窓から見える、青く綺麗な水の惑星
第97管理外世界 通称地球を眺めながら。

こうなるように仕組んだ神様に愚痴をこぼしながら。

主人公設定（前書き）

主人公の設定（無印、A、Sまで）

主人公設定

名前 ヴィンセント・リヒテンシュタイン

性別 男

年齢 14歳

CV 未定

容姿 金目に少し薄い碧髪。身長170cm体重56kg

デバイス 覇天の魔導書（管制人格名 アルトリア）CV川澄綾子

多兵装管制型デバイス ゼロ

（型番MWCD1000）CV福山潤

バリアジャケット

・アルトリア……コードギアスのランスロットの頭部分がない奴
・ゼロ……フォルム？まである。普通はフォルム？か？しか使わない。フォルム？はコードギアスのゼロを鎧みたいにした奴

レアスキル

・レアスキルメイカー……レアスキルが作れる。一つ作ると魔力枯渇になる。

・解析……対象を見る事で解析ができる。画面越しや写真でも構わ

ない。

対象は無機物から生物までなんでもできる。

対象が生物ならば、種族名、名前、親の名前、年齢、性別、体調、資質、身長、体重、経歴などありとあらゆるものが解る。心も読める。

対象が無機物ならばその物質の構成、効果、構造等がわかる。

ON、OFFの切り替えはできる。（心を読むのはほぼ意識せずにする事がある。ただし心を読むとかなりの魔力消費になるため発動は0.1〜0.2秒が普通。この場合魔力反応は無い。最大発動時間は10分）

魔力消費極小。

レアスキルメイカーで作ったものその1。

・魔力変換資質 雷……魔力を雷に変換する事ができる。

・魔力変換資質 炎……魔力を炎に変換する事ができる。

・魔力変換資質 風……魔力を風に変換する事ができる。騎士王の資質を持つ者だけが発現すると言われる魔力変換資質。

・聖王の鎧……ありとあらゆるダメージから身を守る。色は虹色と同じ。

まだ自分の意思では発動出来ない。

・騎士王の剣……魔力や自分の周囲にある物質（空気、水を含む）で剣を生成する。

まだ自分の意思では発動出来ない。

・マルチタスク・ハンドレット……高度のマルチタスク。

自分の使えるマルチタスクの百倍までの並立思考が可能になる。
ただし魔力を消費する。

魔力消費量 小。

レアスキルメイカーで作ったものその2。

・デストロイモード……騎士王の家系に代々受け継がれるレアスキル。

発動する事で体感時間、腕力、脚力、思考速度、五感全てが百倍になる。

魔力光は の月光蝶の色に変化する。目の色も赤くなる。

魔力消費、身体への負担が高いため、長くても5分〜10分が限度である。

魔力消費量 特大

・効率が百倍……プラスの方向に効率が百倍になる。
ただし食事量も百倍になる。

特殊

・騎士王、霸王、聖王の記憶、経験……クローニングの途中で植え付けられた。

身体スペック（ ）は通常時

・筋力 S+ S S - 片手で6トンまで持ち上げられる。

・魔力 A A A + S -

・頭脳 E X (S S S) スカリエッティのフィッシュ数乗(2倍)

・容姿 A A - まあまあ良い位

・全ての動物と話す事が出来る。

才能

・聖王、霸王の徒手空拳の才能

・騎士王の全ての武器を扱える才能

・声を自由に換えられる。

主人公設定（後書き）

変更があるかもです。

EP04 介入

「それじゃ、クロノ、ヴィンセント君。行つて来て頂戴。」

どうも、ヴィンセント・リヒテンシュタインです。

ジュエルシードの前で戦闘始めようとしてる馬鹿二人が居るので止めて来いと頼まりました。

さて、お仕事お仕事。

SIDE もう一人の転生者

俺の名前は 神咲桜花 転生者だ。

特典は魔力値EX銀髪オツドアイ海鳴市生まれだ。

魔法の神とか言うのに転生させて貰った。

なのは、アリサ、すずかにフラグを建てたしフェイトにフラグを建てればハーレムの完成だと思っていたら、フェイト側にも転生者がいやがった！

俺のハーレムの邪魔しやがって！絶対に許さねえ！

SIDE OUT

SIDE もう一人の転生者

僕の名前はカイト・ヤマダ。父が聖王教会の騎士で、母が聖王教会のギルド窓口の受付だ。

信じられないかもしれないけど、前世の記憶がある。

武神ノイエンさんに転生させて貰った。

特典は、全ての才能と最強の盾、それに運氣Sクラスである。

それぞれのデメリットは、努力しなければならない、魔力消費が激しい、何運かは選べない、である。

僕はせっかく第二の人生を貰ったので、平穩に暮らしたかったのだが、『偶然』街の外れでジュエルシードを見つけて、『偶然』フェイト・テストロッサに遭遇し、『偶然』デバイスを持っていた、『偶然』手伝う事になった。

手伝う事に関しては自分で決めた事だが。

何運かは選べないってこういうことか、と思った。

最初は某魔導書図書館に出てくるツンツン頭の人の如く、「不幸だ」

と言ってた。

でも、一緒に戦ううちに友達になりたいと思うようになった。

所詮アニメの中だと思っていた。

フェイトの顔を見て、瞳の奥の寂しさを見て

変えようと思った。

SIDE OUT

SIDE ヴィンセント

「「そこまでだ！」」

原作通り、二人が戦いを始めようとしてる所で介入した。

マジで危なかった。ぎりぎりセーフ！

「時空管理局次元航行艦アースラ所属、執務官のクロノ・ハラオウんだ。そして」

クロノの言葉に続ける。

「同、アースラ所属、執務官臨時補佐官のヴィンセント・リヒテンシュタインだ。」

「「速やかに武装を解除し、投降してもらおうか！」」

原作とセリフが違う？気にするな！

この場合俺に求められるのはレアスキルによる情報収集である。

（えーと、フェイト・テストロッサ……アリシア・テストロッサ

のクローン。プロジェクトFの成功体。才能値総合S -
高町なのは……喫茶店翠屋の子ども。才能の塊。才能値総合S +
カイト・ヤマダ……ヤマダさん（知り合い）家の子ども。才能値総合AAA。って、ヤマダさんの所の長男かよ。後で連絡いれとこ。
ユーノ・スクライア……スクライア一族の鬼才。結界魔導師。才能値総合AAA -
神咲桜花……馬鹿。ロストロギア月夜の魔導書のマスター。才能値総合C +。魔力値EX。）

とりあえず解析した事をメモっとく。

「さて、詳しく話を聞かせ「フェイトの邪魔をするな！」っチィ！（使い魔か！）」

何かオレンジ色の髪をした使い魔が襲ってきた。

クロノに念話を飛ばす。

ジュエルシードの確保を！

了解だ！

ジュエルシードをクロノに任せる

「いきなり攻撃をしかけないで頂きたい。ア……ごほん。フェ……ごほっ！金髪少女の使い魔よ。」

やべえ。危うくレアスキルばらす所だった。

さて、どう切り抜けますかね。

EP04 介入（後書き）

介入編です。

EP05 介入？

SIDE ヴィンセント

「当たらなければどうと言う事はない」

どうも、ヴィンセント・リヒテンシュタインです。
ただいま使い魔アルフと交戦中です。
うつとうしいけど様子を見る為にひらひら回避しています。

「ふっ？このっ？ひらひら！避けるんじゃないよ？」
「阿保か。避けるなど言われてわかりましたって止まる馬鹿がいるか」

回避、回避、また回避。

うん。この程度なら問題ない。

お、怒りで攻撃が直線的になってきた。
そろそろ倒すか。

「ゼロ、クロイツ フォルム？^{ツヴァイ} セット」

【了解した。】

（クロイツはシュベルトクロイツの色違いで、フォルム？だと十字架がなくなり、棍のような形態になる。）

クロイツフォルム？が手に現れる。それで拳をいなし、

「セイクリッドブラスター・ガトリング」

砲撃魔法で零距离射撃。しかも連射。

一秒間に30発を二秒間当てた。

これは完全に連射性能に特化しているので一発の威力は無印版高町なのはデイベインバスターの五分の一位だ。

つまり十二発分。

十分だな。

「くそお……！」

アルフが涙目でこっちを睨んでくる。

「アルフ！撤退だ！」

ヤマダさん家のカイト君が叫んだ。

まあ俺らは現場にいる人から事情を聞かないといけないから追えないからいいけど指示は聞かれるとまずいから念話使えば良いのに。

とりあえずクロノに念話を飛ばす。

クロりん、ジュエルシードの回収は終わったか？

その呼び方はやめてくれないか！まあ回収は終わったよ

ナイスツツコミ。やっぱクロノはいじり甲斐があるわ。

そうか。すまんクロノ。一組逃がした

気にするな。僕らの任務は次元震の原因の究明、対処だ。それに話はそこに居る彼らに聞けばいい。そんな事よりこっちの状況をなんとかしてくれないか

クロノの方を見ると神咲桜花に絡まれていた。

「おいこらKYてめえなんでなのはとフェイトの決闘の邪魔しやが

った？」

「あのまま戦闘を始めていたら大規模な次元震が起こる可能性がある
った。それを止めるのは管理局員なら当然の事だ」

「ハッ！そんなくだらねえ事でなのはとフェイトの大切な決闘の邪
魔すんじゃねえよ」

こいつ世界滅亡の危機をそんな事扱いしやがったぞ？馬鹿じゃね？
解析で見ると 神咲桜花馬鹿の精神状態が爆発寸前だった。

あー、俺こつちの子ら説得するからそつちよろしく
薄情者！

なんか言っているような気がするが俺には聞こえない。

聞こえないったら聞こえない。

聞こえないってば！

「こんにちは。少し話を聞かせて欲しいんだけど、艦アースラまで来ても
らえるかな？」

「あ、はい」

SIDE OUT

SIDE 神咲桜花

さて、原作ではそろそろKYが介入して来る頃だな。KYをボコ
ってストレス発散してやんよ

「「そこまでだ！」」

は？二人の声がしなかったか？

桜花が振り向くとそこには黒いバリアジャケットを身に纏ったクロノ・ハラオウンと、もう一人 某黒の騎士団長の仮面がないverのバリアジャケットを纏った碧髪の青年がいた。

「時空管理局次元航行艦アースラ所属、執務官のクロノ・ハラオウンだ。そして」

と、クロノの声に続けて、青年が言った。

「同、アースラ所属、執務官臨時補佐官のヴィンセント・リヒテンシュタインだ。」

（なるほど。コイツ転生者だな。俺のハーレムの邪魔しようって感じだな。）

まあ、今はKYをボコつてストレス発散するとするか。
フェイトに攻撃した事をネタにボコれば何も言われないだろう。

しかし、そんな予想とは裏腹にクロノはフェイトに攻撃しなかった。

（な？馬鹿な？何でKYがフェイトを攻撃しないんだ？
くそっ！フェイトを攻撃させてからぶっ殺してやろうと思ってたのに！）

フェイトが逃げて行くのが見えた。

（あー、くそっ！こうなったら挑発して攻撃させてからぶつ殺してやる！KYならすぐに挑発に乗ってくるはずだ。）

「おいこらKYてめえなんでなのはとフェイトの決闘の邪魔しやがった？」

これに返してくる答えをバカにすれば攻撃して来るはずだ。

「あのまま戦闘を始めていたら大規模な次元震が起こる可能性がある。それを止めるのは管理局員なら当然の事だ」

「ハッ！そんなくだらねえ事ではとフェイトの大切な決闘の邪魔すんじゃないよ」

さあ、攻撃して来いよ！

「そうか。しかし僕は管理局員だからな」

な？攻撃してこないだ？

それから何度も挑発を繰り返すが全然反応がない。

[illegible]

殺す！

SIDE OUT

SIDE 高町なのは

「あ、はい」

私が全然敵わなかったアルフさんと戦っていた魔法使いの男の人が、お話を聞かせて欲しいから艦に来て欲しいって言っていたから返事をしたの。

その事を話そうと思って神咲君の方を見たら、さっき来た男の子と話していたの。

でも、なんだか喧嘩みたいな雰囲気になってるような気がするの。

「あの、神咲君には「フォトンバレットオ？」え……………」

神咲君が、男の子を攻撃しました。

SIDE OUT

SIDE クロノ

「フォトンバレットオ？」

「な？」

今まで難癖つけて来ていた少年が、いきなり攻撃をして来た。魔力反応からして殺傷設定だろう。

「おらおらおらあああ！」

連射してくる。まあヴィンセントの弾に比べたら遅すぎるくらいだが、と思いながら回避する。

「ちょこまかとお！」

瞬間、彼の持っている銃（仮面ライダーデルタのデルタムーバーとデルタフォンが合体した状態の物）の銃口に光が集まって来た。

「避けるんじゃ、ねえ！」

「収束砲か？」

クロノは咄嗟に回避した。

「執務官への暴行、業務執行妨害で拘束する。フリーズバインド！」

神咲桜花にバインドがかかるとそのまま時間が止まったかのように動かなくなった。

表情筋すら動かない。

クロノの横にウィンドウが開いた。

「クロノ、ヴィンセント君の説得が終わったみたいなのでアースラまで連れて来てもらえるかしら？」

「わかりました。かあ…。艦長」

「はあ……。しかしヴィンセントが作った魔法は本当に便利だな」

フリーズバインドをデバイスにインプットしてくれたヴィンセントに

感謝していたクロノだった。

EP05 介入？（後書き）

フリーズバインド……ヴィンセントがなんとなく創ったバインド魔法。拘束した相手の体感時間を止める。息は無意識下でさせるが表情筋すら動かないようにできる捕縛魔法。
そのまま移動させる事も可能。

EP06 現地協力者 ? (前書き)

直しました。

EP06 現地協力者？

SIDE ヴィンセント

「アースラへようこそ。バリアジャケットは解除してくれ」

「スクライアの君も変身魔法を解除したらどうだい？」

どうも、クロノを攻撃した神咲桜花馬鹿を担いでいるヴィンセント・リヒテンシュタインです。

原作どつりの会話だったので省略します。

で、艦長室前。

「あの、そろそろ神咲君も放していいと思うのですが……」

高町が話かけて来たので思い出した。

「ん？ああ、忘れてた。」

フリーズバインドを解く。

「何を？」

おお、びっくりしてるな。まあ、いきなり場所が変わったら驚くよね普通。

「っと、これから艦長室へ入るからバリアジャケットは解除して

くれ。あとくれぐれも失礼の無いように」

神咲が渋々バリアジャケットを解く。

流石に高町の前だと暴れるのはまずいと判断したのだろう。

「艦長、連れて来ました」

「あら、お疲れ様二人とも」

いつ見ても不自然な和室だな。室内に鹿威しとかありえねえ。

ああ、お腹が空いた。

SIDE OUT

SIDE 神咲桜花

「何を？」

気が付いたらアースラの中にいた。

何をされたかわからんがリンディと舌戦を繰り広げないと予定が

狂いつ放しだ。

ここでなんとかしないと。

「これより、ロストログア ジュエルシードに関しては私達が全権を持ちます。貴方達はこの事を忘れて今まで通りの生活に戻って下さい。心配しなくても私達で事件は終わらせるから、安心して下さいね」

は？ここで協力するように言うんじゃないの？

「ああ、デバイスに関してはもつといてもいいよ。短い時間だったとは言え大事な相棒だろうから」

は？ちよつと待てよ？そんな事になったらフェイトにフラグ建てられねえじゃねえか！

「冗談じゃない！

「あ、艦長。この世界だと子供の門限が5：30頃が普通のみたいなんで後の処遇は明日にしません？今5：05なんで」

おそらく転生者だとおもわれる男が言った。

「そうね。親御さんを心配させてはいけないわ。そうしましょう」

「と、いう事だから送るよ。さっきの公園でいいかな。明日も同じ場所にいれば迎えに行くから、……明日は日曜日だね。12：00位に迎えに行くから」

何かメモ帳のような物をめくりながら男、ヴィンセントとかいってたか、が答えた。

ここは一旦帰ってから作戦を練るか。

原作からみるみる離れて行くような気がするな。

だがここで退く訳にはいかねえ。

SIDE OUT

SIDE 高町なのは

ヴィンセントさんが門限に気を遣ってくれたので帰してくれました。

私はフェイトちゃんとお話したい。

だから明日、私はこの思いをみんなに伝えようと思います。

フェイトちゃんと、ちゃんとお話してお友達になる為に。

SIDE OUT

SIDE ヴィンセント

薄暗い部屋で俺は一人で資料をまとめていた。

「はあ……第97管理外世界の海鳴市は3年前に魔力値AAAクラスの間人32人が戦闘行為を行った事で準管理世界へ一時昇格。しかし魔法は認知されておらず戦闘行為を行った者の内のほとんどは魔法を使えたとはいえ感覚的な物で無意識下での身体強化しか出来ず、しっかり使えたのは3年前の事故で墜ちた貨物船に積まれていたデバイスを拾っていた8人のみ。デバイスを持って居た物の内4人を管理局魔導師候補生とし、残りの者はリンカーコアを封印。戦闘の理由は封時結界を張り訓練をして居た二人にデバイスを持たない24人が奇襲、その後デバイス持ち4人が乱入。更に二人が巻き込まれた。奇襲をかけた彼らは『ム力ついたからやった』『力試しをしたかった』等と供述しており、乱入した者については『俺が一番じゃなきゃ駄目なんだよ』『目障りだったあいつらが悪かったんだ』等と供述。巻き込まれた4人に関しては『襲い掛かれたから必死で逃げていた』『デバイスと仲良くなつてので教えて貰った魔法を練習していたら襲われた』と供述した事から巻き込まれただけと判断。彼らは誰も傷つけていなかったたので管理局魔導師候補生とする事でしばらく我々の庇護下に置いた。なお、この世界は今現在管理外世界に戻されている、ね」

無茶苦茶だな。

突然変異ってレベルじゃ無いだろ。

「被害者の4人は災難だったな」

はあ……データまとめ終わったし寝よ。

おまけ

お腹が空いたので食堂に居ます。

「あ、エリカさん注文いいですか？」

注文に許可がいるのは俺が減茶苦茶食うからである。

「えーと、はい 大丈夫です」

「じゃあエクサハンバーグ定食を一皿お願いします」

三十分後

「エクサハンバーグ定食お持ちしました」

20人程の人が持つてくる。

「いただきます。」

エクサハンバーグ定食。普通のハンバーグ定食の150皿分の量であり完食できた人間はヴィンセント以外にいなかったりする。

「ごちそうさまでした」

[illegible]

「完食時間20分！」

「よっしゃ！大穴一人勝ち！」

「くそ！25分に賭けるんじゃないかった！」

「ランカルさん賞金の100万\$です」

何分で食べれるかで賭博が行われるレベルでアースラの名物と化しているヴィンセントであつた。

EP06 現地協力者 ? (後書き)

被害者四人はそのうち出ます。

EP07 現地協力者？

SIDE ヴィンセント

「おう！こつちだこつち！」

どうも高町なのは及び神咲桜花を待っていた、ヴィンセント・リヒテンシュタインです。

「う、こんにちは」

「……チツ……（クソっ？何でこんな事になってんだよ。俺はオリ主だったの！）」

神咲よ心の声がただ漏れだよ。
え？お前のはレアスキルだろう？
そっぴやそっぴやだな。

「んじゃあ行こうか」

「わかりました」

「わあっ たよ」

うわゝ約一名態度悪ゝ
まあどうでもいいな。

「うん、どうでもいいね」

うお？神様何時の間に？

「だって仕事終わって暇だったんだもん。別にいいじゃん」

なんと云う適当さ。まあいいけどさ。

そんな事を考えながら雑木林の中に入って行った。

「転移！」

くアースく

「それじゃ、昨日の話を続きをしましょうか。デバイスはそのままにして事件からは手を引いて頂くという形でよろしいですね？」

「あ、あのっ？」

高町が声を上げた。

「私っ？あの子、フェイトちゃんとお話したいんです！だから手伝わせて下さい！」

やっぱりこっなんのか。

「御愁傷様」

はあ……

「艦長、管理局法第七十二条は覚えてますか？」

俺は頭を抑えながら言った。

「第七十二条……管理外世界においての協力者の法律ですね。確か、管理外世界の事件において、当事者が参加を表明し説得での参加拒否が不可能であると判断した場合に限り、当事者を傭兵として一時的に現地協力者となつて貰う、だったかしら？」

リンディ艦長も頭を抑えている。

「はあ……できる限りの支援もですよ艦長……」

クロノに至つては頭を抱えている。

「じゃあ制度の説明はヴィンセント君に任せるわ」

全部投げられました。いや、書類まとめたり忙しいのはわかるけどさ。

俺、この戦いが終わつたらしばらく隠居しようと思つんだ。

はあ……面倒臭い……

SIDE OUT

SIDE 高町なのは

「そんじゃあ制度の説明するから良く聞いてしっかり覚えるように！」

ヴィンセントさんが面倒臭そうな声で言ったの。

「まず原則として五回の命令無視で懲罰ありだから命令無視はすんなよ。そして神咲、てめえは四回だ。あと懲罰の内容は言わねえぞ。ここ迄で何か質問は？」

「大有りだ！何で俺だけは四回なんだよ？」

神咲君がそう言うと、ヴィンセントさんが何処からか持って来たハリセンで神咲君を叩いたの。

「阿保か。執務官に攻撃してんだからそれなりのペナルティーは当たり前だ。もしかしてお咎めなしだとも思ってたのか？おめでたい頭だな」

ヴィンセントさんがすごい毒舌なの。

「うぐう？」

神咲君がヴィンセントさんを睨んでるけどヴィンセントさんは平然としているの。

「他に質問は？ はい、高町発言を許す」

「懲罰って何をするんですか？」

「高町、お前はもつと人の話を聞け……………」

何だか可哀想な物を見るような目で見られたの……

SIDE OUT

EP08 最低な転生者の末路？

SIDE ヴィンセント

「……はあ……神咲……お前何回命令無視したら気が済むんだ？
一週間で二回の命令無視する奴なをやつなんざ初めて見たぞ？」

どうも、神咲^{グオケ}のせいで頭痛と胃痛が治まらないヴィンセント・リ
ヒテンシュタインです。

え？分り切ってた事だろう？

何言ってるんですか。あいつの命令無視のせいで一般局員が50人
負傷してんですよ？

しかも二回ともテストロッサが出た時で彼女を確保しようとし
た局員の邪魔して魔法を殺傷設定で撃つてさ。

威力は小さかったから良かったものの全治一週間レベルの傷負わ
せてさ。

管理局法では死傷者が出なければ処罰したら駄目だし。

しかもそんな時考えてる事が、

（これでフェイトは俺に惚れるだろ！）

とか、

（フェイトフラグキター！ O（ ） O ）

だの

なんだぜ？殺意の百や二百くらい沸くわ。

因みにその時テストロッサは、

（どうして管理局の手伝いしてるのに私達を助けようとするの？
というか何でこっち見ていちいち笑うの？しかも無闇矢鱈と頭を撫
でて来ようとするのはどうして？すごく嫌なんだけど……）

とか考えてたわけだが。

だいたい特典で頼んでも無いのにニコボ・ナデボなんかあるわきやねえだろ。最低な能力

あー、マジで死なねえかな神咲……てか死ね。

マルチタスクとは本当に便利な物で、こんな事を考えてる間にも神咲に説教かましているのである。

「はあ……まあこんなもんでいいだろ……もう二度と命令無視なんかすんなよ」

そう、丁度4時間ほど。

「ありがとうございました」(くそっ？無駄な時間取らせやがってこのボケ？お前なんざ《ピー》で《自主規制》で《ひどい罵詈雑言》？)」

……………やっぱ殺していいかな？

SIDE OUT

SIDE フェイト

今手元にあるジュエルシードは9個。

カイトが見つけて来たのが4個、私が見つけたのが2個、あの子と賭けたのが1個、それとあの目的がわからない変な子が渡して来たのが2個。

あの子と管理局が持っているのが6個。

あと6個はおそらく海の中。

カイトはやめてと言っているけど、私は海に魔力を流して強制的に発動させる。

早く母さんに笑って欲しいから。

今日は母さんに報告しに行く日だ。

カイトは連れていけないけど、カイトに貰ったお土産はちゃんと渡そう。

SIDE OUT

SIDE プレシア

～時の庭園～

「母さん！ジュエルシード、とって来たよ！」

フェイトが帰ってきた。

最近あの子はアリシアみたいに笑うようになった。

本当に、幸せそうな、そんな笑顔。

確か現地で出会った協力者ができたって報告して来た時からかしら。

もしかしてあの子、その協力者の子に気があるんじゃない？……

はっ！何を考えてるのよ私は！あの子はアリシアの二セモノなの？

「ただいま母さん！」

『ただいまお母さん！』

「っ？」

『ねえアリシア？誕生日には何が欲しい？』

『んーとね、私、妹が欲しい？それでね、二人で一緒に色んな事がしたい？』

『そ、そう。考えておくわね……』

『ははは、プレシア、もう一人作るか？』

『もうっ！からかわないで！』

「…あさん……か…さん……母さん！」

その声ではっと我に返る

「ごめんなさい。少しぼうつとしていたわ」

そう言えば昔、そんなお願いされてたっけ。

それに、あの人も言ってたな………

今からは遅いかもしれないけど、あの子、フェイトを娘と思おうと決めた。

少し気付くのが遅かったけど、許してくれるよね、貴方、アリシア………

「ジュエルシード！九個目まで集めたよ！」

驚いた。こんな、二週間位しか経ってないのにもうそんなに集めたのか。

前に来た時に二つで怒った記憶がある。

なんて事をしてしまったのだろうか。

「すごいじゃない。それでこそ私の娘ね！」

今となっては褒める事しか出来ない。ごめんなさい、フェイト。

「うん！」

ごめんなさいアリシア。あなたの妹にひどい事をしてしまって。

眠………
眠っている貴女を起こす為に必要なジュエルシードは少なくともあと6個。

もう少しで貴女の夢が叶うわよ……………アリシア……………

SIDE OUT

SIDE カイト

フェイトが帰ってきた。

様子を聞いたら、なんとあのプレシアがフェイトの事を褒めたと言っ。

明らかに原作と違う。

神の話だと今より前にも転生者は送っているらしいから何が起こつても不思議ではないと思っていたが、まさかここ迄原作から離れているとは思わなかった。

だがハッピーエンドになるならそれもいいかもしれないな。

SIDE OUT

SIDE ヴィンセント

最後に神咲を説教してから数日経った。

今日はゆっくり休もう。

「エイミィ、緑茶淹れてくれないか」

「はいな。昨日は深夜まで書類整理だったそうだね、お疲れ様。
はい、緑茶」

「本当にリンディ艦長もクロノも人使い荒いよな。所でエイミィ、
もうクロノには告ったのか？」

「えっ？ちょ、そんなんじゃ無いって！」

エイミィが顔を真っ赤にさせる。

はーやっぱエイミィからかつの超楽しい。

「お、茶柱立ってる。今日は良い事ありそうだな」

さてと、今日はシャワーじゃなくて風呂に入るかな

よし、まずは飯くいに「海鳴市海上で魔力反応確認？魔導師、並びに執務官と現地協力者の方は至急ブリッジまで集まって下さい！」

……不幸だ……

SIDEOUT

EP08 最低な転生者の末路？（後書き）

プレシアは原作とは全くの別人です。

EP 8 / 5 プレシア・テストロッサの親愛なる夫

SIDE ハンブルグ・テストロッサ

やあ、僕の名前はハンブルグ・テストロッサ
しがない技術チートを持った転生者さ。

前世で僕は科学者で周りの同僚にはリアルジェル・スカリエツ
ティとか言われていた。

そのつながりでリリカルなのはの三期を見たし、内容まで覚えて
いる。

一期と二期は運が無かったから見れなかったけど
因みに死因だが、どうも僕は寝てる間に心臓麻痺で死んだらしい。

それで、目が覚めていきなりヒゲのおじさんに

「君、気に入ったから転生させてあげるよ。お願いを三つまで聞いて
あげよう」

とか言われて吃驚したよ。因みにその時は、

「じゃありカルなのはでミッドチルダに転生したいな。あ、もち
ろん色んな研究が自由にできる所で！後は前世より頭を良くした
いな。あと、前世では運が無かったからその辺の運も追加で」

と言ったんだ。

そしたら神様は、

「なんじゃ、原作ブレイクだー、とかそーいうのは言わんのか？」

なんて言っただ。

その時俺はこう言った。

「原作なんてどうでもいいから研究がしたいんだ！デバイスの仕組みや完全なクローン、戦闘機人なんて素晴らしい物が研究できるならそれでさ！」

すると神様は笑ってこう言ったんだ。

「お主のような面白い奴はこれで二人目じゃよ。よろしい。ならば転生し二度目の人生を謳歌すると良い。なに、いい物件に転生させてやろう」

で、34年経って今に至る訳さ。

はしよりすぎだって？

誰が周りで見る分には退屈な実験を見たがるんだい？

「貴方、何やってるのよ？折角の休みなんだからアリシアと遊びましょう？」

「ははは、ごめんよプレシア。でもなんだか研究してないと落ち着かなくてね。ほら、今度僕らで実験する次元航行エネルギー駆動炉「ヒュードラ」の設計に穴が無いかチェックしてたんだ」

「はあ……………ここまで研究が好きなんて、マッドサイエンティストの領域ね」

「君に言われたくないな。ヒュードラの研究が回って来た時に僕以上に狂喜乱舞してたのは君じゃないか」

「あら、そういえばそうね」

おっと、紹介が遅れたね。彼女は僕の妻の妻のプレシアだよ。

クローン研究の最先端の人が生まれた子どもを「人形だ」って言うたのを批判したのが始まりで、それから色々してるうちに気が付けば結婚して子供が出来てたんだ。

で、その子供がアリシア。今年で9歳なんだ。

注：アリシアは原作より三年早く生まれています。

さて、明日は実験だから今日はゆっくりするか。

～翌日～

研究所

「大変です！動力炉がオーバーロード状態に！」

「このままでは次元震が起きます！」

「ッ！プレシア！緊急停止ボタンを！」

確かに設計に不備は無かった！だとすればこれは人為的な事件か！

「ダメよ！さつきからやってるけど反応しないの！」

くそっ！あいつらが持つて来た仕事だから胡散臭いとは思ってたが！首になった僕が新しいデバイスの会社を作って、そのせいで売り上げが落ちた事をここまで憎んでいたなんて！

「不正や汚職の証拠、それと今回の事故の原因があいつらの所為だつてのは今管理局に送つたがこれでは助からない、か」

そうか。幸運が最高値でもこれでは助からないな。それだつたら！

（神様！僕の幸運をどうかプレシアとアリシアに！）

「皆！シエルターまで退避してくれ！僕が外から扉を閉める！」

プレシア、アリシアと仲良くね

「あ、貴方あああああああああああ！」

SIDE OUT

SIDE プレシア

シエルター内

同僚のハルバードが私を羽交い締めにする。

「離して！あそこにはまだあの人が！」

「落ち着いて下さい主任補佐？主任が命を賭してまで我々を退避させてくれたんです？その決意を無駄にするつもりですか！それに娘さんがいるんでしょう？」

「でも……………あの人……………」

「貴女まで居なくなったら娘さんはどうするんです！生きて？主任の分まで生きて下さい？それが主任の願いでしょう？」

「うつつ……………」

突如、空間が揺れる。

「次元震、来ました！」

そんな声と共に私は気を失った。

数日後

病院

「残念ながら、娘さんは植物状態です。奇跡的に外傷はありませんが、リンカーコアに多大な負荷がかかっており、治療には膨大な量の純粋な魔力で負荷を取り除く必要があります。しかし今はまだそんな事は出来ません」

私の中で何かが崩れる音がした。

「分かりました。……………ですがアリシアは連れて帰ります」

そうよ。まだ方法ならある。あの人が遺してくれた、時の庭園で研究をして、いつか絶対にアリシアを！

数年後

プロジェクトF・A・T・E・がやっと完成した。しかし出来たのはアリシアによく似ただけのお人形。

こうなったら、ロストロギアに頼ろう。

確か文献に純粋な魔力の結晶体であるロストロギアについての記録があつたわね……………

待っていて、アリシア。

絶対に救って見せるから。

SIDE OUT

レポート1936548

次元航行エネルギー駆動炉「ヒュードラ」の暴走事故について

今回の事故は、クラウン・オウギュスト・エレクトロニクスが故意に引き起こした物として刑事事件として研究者側が起訴した。

裁判では序盤は研究者らが不利であったが、中盤へ差し掛かろうという時に管理局が介入。

クラウン・オウギュスト・エレクトロニクス社の不正事実及び事故の原因である動力炉の安全装置を外している所の証拠映像が持ち込まれた事により立場が逆転。

他にも様々な汚職事実が浮上したため、裁判では研究者側の勝訴。

尚、裁判の決定的な一打となった証拠品だが、差出人が、「A researcher's ghost」（研究者の亡霊）であった事から唯一の死亡者であり、主任であったハンプルグ・テストロツサであると関係者は予想している。

いずれにせよ真実は闇の中である。

―時空管理局法務課事件レポートより抜粋―

EP 8 5 プレシア・テストロッサの親愛なる夫（後書き）

感想など寄せて頂けると幸いです

EP09 最低な転生者の末路？

SIDE ヴィンセント

「リンディさん、命令無視しますごめんなさい！ユーノ君、お願い！」

どうも、ただいまブリッジにて無茶やつてるフェイトを眺めています、ヴィンセント・リヒテンシュタインです。

「はあ…… 高町！スクライア！一回だぞ？まったく……」

引き止めはしない。無理だから。

「ありがとうございます！」

神咲、高町、スクライアが走り出す。

は？神咲？命令無視三回目でカウントしてますがなにか？

もう説教なんかしねえし警告もしねえ。さて、あと一回で処罰だな。

どんな顔する事やら。

「はあ…… ヴィンセント、行くぞ」

クロノがため息をつきながら言った。

管理局法では協力者には監督役が一人必要だしね。

「了解だ。クロノ執務官殿」

↓
海鳴市海上↑

転移したら、丁度

「二人できつちり半分こ」

のタイミングだった。

面倒臭いからさっさと封印して帰ろうっと。

は？原作ブレイク？知るか。俺はさっさと帰って寝たいんだ。

「ゼロ、第一兵装 クロイツ、フォーム？セツトアップ」
シンヴァイ

【了解！クロイツフォーム？セツト！】

手に杖（棍）が現れる。

「バスターランサー シーリングモード、フランクス？ファイア？」

バスターランサーはぶっちゃけフォトンランサーの上位版みたいな物で、フランクスでは十二の砲門（環状魔法陣）から毎秒十発のペースで発射される。

因みに砲門の最高生産量は52基である

因みに移動しながらでも撃てる。

「ジュエルシードシリアル X V ? ? ? X ? X X ! 封印！」

流石に全ては封印できなかったが X V ? ? ? X ? の封印には成功した。

「ちいっ！一個撃ち漏らしたか……！」

まあ一つありやあ原作通りに二人で撃つだろ。

「行くよ！フェイトちゃん！」
「わかった」

ちょ、明らかに入ってる魔力が半端ないんですけど？

その四分の一もあれば普通に封印できるよ？

「デイベイイイン！」

「サundaアアアア！」

「バスタアアアア！」

「スマツシャアアアア！」

「「ジュエルシードシリアルXX？封印？」」

うわぁ……………えげつない。

感動的なシーンが始まった。それにつけても眠いし帰りたい。

『ッ！次元跳躍魔法確認！気を付けて！』

エイミィからの警告だ。

さて問題です。俺は今、テストロッサと高町を見下ろすような位置に立って（飛んで？）います。

そして後ろから魔力反応がしています。

ここから導き出せる答えは？

ハハハハハハハハハハハハハハハハ……神様……俺って呪われてんの？

「呪われてはいないけど幸運の値はCで、この場にいる誰よりも低いね」

ちょ、それマジ？

直後、紫電がヴィンセントに襲い掛かった。周囲に肉が焼ける匂いが充満した。

SIDE OUT

SIDE クロノ

「な？殺傷設定だと？」

高町なのはやフェイト・テストロッサ、カイト・ヤマダとユーノ・スクライアが目を見開いている。

「え？うそ……」

「母さん？」

「フェイトの……母親？」

上から順に高町なのは、フェイト・テストロッサ、カイト・ヤマダの言葉である。

ユーノは声も出ないようだ。

「っ！エイミー！」

『今の魔力量から推定するとヴィンセント君はもう………！』

「くそっ！」

SIDE OUT

SIDE プレシア

やってしまった。

フェイトの様子を見るのにスフィアを出したらフェイトが捕まりそうな状態だったのでうっかり次元跳躍魔法を放ってしまった。

殺傷設定で撃ってしまったのではや跡形も残っていないだろう。

殺してしまってごめんなさい、管理局の『あーマジで死ぬかと思っただ。しかし誰だよ普通の人間が受けたら消炭通り越して蒸発するレベルの魔法撃って来たの』

.....は？

SIDE OUT

SIDE ヴィンセント

「あーマジで死ぬかと思った。しかし誰だよ普通の人間が受けたら消炭通り越して蒸発するレベルの魔法撃って来たの」

まったく。なんか直撃の瞬間に虹色の鎧みたいな物が展開されたお陰で助かったが。

何だったんだろ、あれ。今は発動出来ないし。

「ん？お前ら何で葬式みたいな雰囲気になってんの？」

それを聞いてクロノが怒鳴った。

「黙れ！あんな次元航行艦一隻落とせてもおかしくないレベルの砲撃で生きているお前が異常なんだ！僕の心配を返せ！」

「あー、心配掛けてごめん？」

「おまえなあ……………はあ。まあヴィンセントだからしょうがないか」

何だその言い方。まるで俺が人外みたいな言い方じゃないか。
あれ？心当たりがありすぎる？

「まあいいや」

なんかテストロッサとカイト君がジュエルシードを取って帰ろうとしてるけど五個は俺が持つてるからスルー！

「じゃ、帰ろっか」

「あれ？フェイトちゃん達は？」

いつの間にか居なくなつた三人の事を思い出し、高町は素つ頓狂な声をあげた。

「は？さつき帰って行っただが？」

そう説明した途端に

[illegible]

という神咲以外の全員の驚いた声が海上に響き渡った。
因みに神咲は俺が始めに撃ったバスターランサーで撃墜されて海に浮いている。

誰もいなくなつた事に気付いて無かつたようだ。

「よし、じゃあ転移！」

神咲も忘れずに飛ばす。

その後、アースラでこつてり絞られたヴィンセントでした。

SIDE OUT

EP10 最低な転生者の末路？（前書き）

次で無印完結！

かも。

EP10 最低な転生者の末路？

SIDE ヴィンセント

「君ら少し家に帰って休憩するといいよ。ジュエルシードは全部確保終わったから後はフェイト・テストロッサ及びプレシア・テストロッサの確保だけだし」

どうも、最近人間の三大欲求が、睡眠欲、食欲、休息欲だと思うようになって来たヴィンセント・リヒテンシュタインです。

「そうね。貴女達最近働き過ぎだし、親御さんやお友達にも会いたいでしょう？」

リンディ艦長が便乗してきた。

「分かりました。ありがとうございます」

「……………分かった（これでアリサがでかい犬を拾ったイベントになるわけか。無印ももう終わりだな）」

あ、そうなんだ。無印はあんまり覚えて無かったからな。

「じゃあ送るぞ？」

「よろしくお願いします」

「よろしくお願いします」

「さっさとしろ」

神咲は上の二人に比べると残念な子になるな。

「じゃ、いってらー」

二人と一匹を飛ばした。

「おっしやあ！これで暫く業務からおさらばできるぜ！..」

満喫するぜ！

「何を言ってるんだ“歩く無限書庫”君？資料まとめを手伝って貰おうか！」

「くっ？クロノ離せ！離さないとエイミィに例の事ばらすぞ！」

「なっ？どこで知った！」

あれ？その場しのぎの出任せだったのに。

「早く言わないか！（エイミィ宛のラブレターが執務室にあるなんて聞かれたら！）」

ああ、成る程。いやーこの能力便利だわ。まあ滅多に使わないけどね。それに10分も心読めば魔力枯渇だし。

「俺が調べようと思って調べられない物があるっても？」

これは本当。

覇天の書と対になつてゐる魔導書の『征天の書』があるからな。

征天の書はキーワードを入力（念じる？）するとどういう仕組みか世界と繋がつて情報を手に入れられる。

分かるのは過去の事（リアルタイムで更新）だけだがそれで十分だ。

因みに入手したのは去年で、いきなり目の前に転移してきて起動した時にはかなり吃驚した。

つい、ベルカの技術力は次元世界一！って叫びそうになつた位だ。

因みに管制人格は無い。

形は夜天の魔導書の表紙の色が藍色で剣十字の色が赤バージョンを想像してくれると良い。

「ぐっ！分かつた。なら、今日は緊急事態が無い限りは休んでくれ。それとくれぐれもあの事は誰にも言つなよ！」

「いいだろう。交渉成立だ」

この世界では俺が裏で動き回つたからかクロノとエイミーはこの時点で両思いだ。

リア充モゲロ

「よし、先ずは飯だ！今日はカツカレーエクサボリウムだ！食つて喰つて食いまくる！」

SIDE OUT

SIDE 神咲

おかしい。アリサがでかい犬を拾ったという事を一言も発しない。

まさかあの転生者^{カイト}が何かした所為じゃ無いだろうな……………

↓ 放課後 ↓

結局アルフは堕ちていなかった。

このまま行くとなのはとフェイトの決闘がなくなってしまう！

くそっ！何とかしなければ！

なのはちゃん！神咲君！聞こえる？

エイミィからの通信だ。

どうかしたんですか？エイミィさん？

本当にどうしたんだよ。そんなに慌てて？

ただでさえ大変な時にどんな厄介持ち込むつもりだよ。

えーとね。今アースラに手紙が届いて、その手紙に日本語で、
『果たし状、明日の朝9時に海鳴臨海公園にこられたし。ジュエル
シードを賭け、決闘を申し込む。フェイト・テストロッサ』って
！

良かった……………これで原作通りの決闘が起きる……………

しかし書き方が変なような？

余談だが、これはカイトの貸した漫画に影響された結果なのだが、
これを知るのは数年後の事である。

SIDE OUT

SIDE ヴィンセント

〱翌日 海鳴臨海公園 AM 9:00〱

「どうも、二人の監督役のヴィンセント・リヒテンシュタインです」

只今臨海公園にてカイト君を説得中です。

「あ、どうも……………」

少し警戒気味だな。

「カイト君、シローさんもエリーゼさんも心配してるから帰らないか？」

「ッ？（どうして僕の名前と両親の事を知っているんだ、コイツ！）」

「いや、どうしてって言われても二人とは知り合いだし、名前に関しては少し調べたら分かるよ？」

「ッ？（心を読まれた？）」

カイトはさらに警戒を強めた。

あ、やっべ。無意識に心読んじまった！レアスキルがばれるかも！誤魔化さなければ！

「いや、そんな事を思ってるような気がただけだ。気にするな」

カイトの警戒が少し解ける。

「そうですか。でも、僕はフェイトを見届けたいんです」

うわ、両親そっくりだな。この頑固さは両親譲りか。

等と話している内に決闘が始まったわけなんだが……………

「フォトンランサー　ファランクスシフト　リファイン！ファイア！」

数が38基なのはまだ良い。

何で俺のバスターランサーと同じような環状魔法陣なんだよ？

解析で術式見たけど殆ど同じじゃん！

威力が5割落なのはおいといても毎秒10発になってるし！

吃驚していると、横からカイトが解説を入れた。

「デバイスの中の映像から貴方の術式を見てフェイトが自分の魔法に組み込んだんです」

マジかよ。

なのはに38×10×5、つまり1900発のフォトンランサーが殺到する。

「スパーク……………エンド！」

最後にフェイトの手に集まった雷の槍が投げつけられる。

爆音が響き渡った。

暫くしてフォトンランサーの爆煙が晴れて行く。

「攻撃すると、バインドっていうのも解けちゃうんだね」

そこには、ところどころ焼け焦げた所があるバリアジャケットを纏った高町なのはがいた。

「今度はこっちの、番だよ!」

【Divain baster!】

To Be Continued...

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7900y/>

魔法少女リリカルなのは 転生者による原作破壊の物語

2012年1月10日17時48分発行